

日本のプロ野球にマー君こと田中将大投手が帰ってきた。まさか現役大リーガーである田中投手が日本に戻ってくるとは思ってもみなかった。東日本大震災から10年目となる今シーズンに合わせたかのように、それも楽天に戻ってきてくれた。やはりマー君は、特別な人物であり、スーパースターである。何かの星の下に生まれているのは間違いない。

田中投手と楽天となると、自ずと2013年11月3日が思い出される。読売ジャイアンツとの日本シリーズ第7戦、楽天リードで迎えた9回、闘将、星野仙一監督が球審に、まるで怒鳴るかのように「タナカ」と告げたのである。常識的には、この第7戦に田中投手がマウンドに上がることは考えられない。

しかしである。星野監督ならば、やるのではないか、やってくれるのではないかと期待していたのは、私だけではなかつたらう。マウンドに向かう田中投手の姿を見て、まだ優勝が決まってもいないにもかかわらず、目に涙を浮かべた東北の人たちはどのくらいいたことだろう。東北に限らず日本中の人たちが心を動かされたはずである。

このシーズン、24勝0敗という驚異的な成績を残した田中投手が胴上げ投手となり、楽天は初の日本一となった。楽天にとっても、東北の人たちにとっても、そして田中投手にとっても最高の形だった。この楽天の優勝で、マー君の活躍で、福島県を含めた東北の人たちが、どれほど勇気づけられたかわからない。

名将、野村克也監督が以前、田中投手がまだ新人だった頃に、「マー君、神の子、不思議な子」と評したことがあった。これは本当だったのである。田中投手が、これほどの活躍をする陰にはプロとしての並々ならず努力があることと思う。

世界のホームラン王、王貞治さんがこんなことを言っている。「基本的にプロというのは、ミスをしてはいけないんですよ。プロは自分のことを、人間だなんて思っちゃいけないんです。百回やっても、千回やっても絶対俺はちゃんとできる、という強い気持ちを持って臨んで、初めてプロと言えるんです」

一流のスーパースターのレベルは、私のような凡人には推し量る術もない。マー君は、甲子園でのハンカチ王子こと斎藤佑樹投手との投げ合いから、何かに導かれるように人生を歩んでいるのだろう。マー君が楽天のユニフォームを着て投げるというだけで、日本のプロ野球全体が活気づくだけだからすごい選手である。人々に夢を与えてくれる数少ないプロの選手である。

昨年はコロナ禍の中でも何とかプロ野球の試合は開催された。しかし、何かもの足りなさがあったのは事実である。今年は、果たしてどんな展開が待っているのか楽しみである。久しぶりにワクワク感がもてるシーズンである。

コロナの状況が落ち着けば、息子の影響により、にわか楽天ファンとなった一人として、仙台の楽天球場にマー君の勇姿を観にいきたい。そして、秋頃に再びマー君が胴上げ投手になってくれれば、10年の歳月を様々な思いを胸に過ごしてきた東北の人たちに、新たな勇気を与えてくれるに違いない。